

未来の 生活を 考える スクール

2022
7/9
SAT

#7 誰かと一緒に
生きていくための表現
OPEN 13:00 / CLOSE 16:45



主催 秋田市文化創造館

未来の生活を考えるスクール



要申込
託児サービス
があります
6/29(木)切

「新しい知識・視点に出会い、今よりちょっと先の生活について考える」ための
トークイベントやワークショップを開催しています。

1990年代半ばの東京で実践された共同保育の試み「沈没家族」で育ち、その試みを振り返るドキュメンタリー映画を監督した加納土さん、ユニークな方法で他者と関わることを「アート」と捉え、音楽や言葉を手立てに、全国の市街地、福祉施設、学校、復興団地などで文化活動を手掛けてきたアサダワタルさんをゲストに迎え、映画「沈没家族」の上映とトークを行います。例えば、「家族だから、〇〇だから、××しなければいけない」と役割に固定されてしまうこと。他の誰にも代えがたいことは時に喜ばしく、時に苦しいこともあるでしょう。しかし、そういった役割が外れた時にこそ生まれるコミュニケーションや表現があるとしたら、ひとつの希望になります。伝えなければ消えてしまうような日々の生活・プライベートな体験を形にして誰かに共有してみることで、そこに宿る創造性について、誰かを巻き込み、巻き込まれながら誰かと一緒に生きていくことについて…などなど、お二人のこれまでの活動からお聞きします。

2022
7/9
SAT

#7 誰かと一緒に生きていくための表現

OPEN 13:00 / CLOSE 16:45

会場：秋田市文化創造館 2階スタジオ A1

定員：30名（要申込、先着順）

参加無料!



13:00～14:30

映画『沈没家族』上映

15:00～15:30

加納 土さんレクチャー

15:30～16:00

アサダ ワタルさんレクチャー

16:00～16:30

加納さん・アサダさん対談

16:30～16:45

質疑応答

16:45～17:30

交流会 ※希望者のみ

映画予告編



「沈没家族 劇場版」

2018年 | 日本 | カラー | 93分 監督・撮影・編集：加納土



加納 土

1994年生まれ。1歳～8歳の間を東京で母、加納穂子のはじめた共同保育の試み「沈没家族」のもとで過ごす。8歳からは母親と二人で東京、八丈島に移住。その後、武蔵大学社会学部の卒業制作として「変な家族」で育った自らのルーツを探すドキュメンタリー「沈没家族」を制作する。2019年、卒業制作を新たに劇場公開用に再編集し全国の映画館で公開する。2020年、筑摩書房から書籍「沈没家族 子育て、無限大。」が出版。



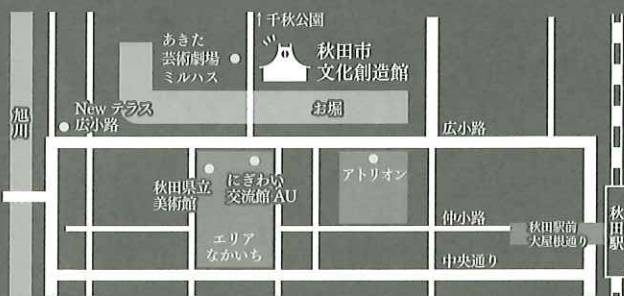
アサダ ワタル

撮影：加藤 甫

1979年生まれ。これまでにない不思議なやり方で他者と関わることを「アート」と捉え、音楽や言葉を手立てに、全国の市街地、福祉施設、学校、復興団地などでプロジェクトを行う。2009年、自宅を他者にゆるやかに開くムーブメント「住み開き」を提唱し話題に。著書に「住み開き増補版」(ちくま文庫)、「ホカッと家族」(平凡社)、「想起の音楽」(水曜社)、CDに「福島ソングスケイプ」(Granny Rideto) など。2022年から近畿大学文芸学部教員。博士(学術)。

秋田市文化創造館について

2021年3月21日に開館。秋田に暮らす人のために、自分らしい表現を探す人のために、新しい活動を生み出す拠点です。多様な文化活動との出会いの場を提供するとともに、自ら創作活動を行う方、新たな活動をはじめようとする方々を応援します。



お問い合わせ・お申し込み

秋田市文化創造館

〒010-0875 秋田県秋田市千秋明徳町 3-16

☎ 018-893-6424 ✉ program@akitacc.jp

[開館時間] 9:00～21:00

[休館日] 火曜日(休日の場合は翌日)、12月29日～1月3日

https://akitacc.jp

お電話または
フォームから
どうぞ!

参加申込はこちら

